

調査主旨

※本調査は、助産師教育における実践能力の確保を図る観点から、保健師助産師看護師学校養成所指定規則(昭和26年文部省・厚生省令第1号)別表2備考欄に定められた分べん取扱い回数等の実態を把握するため、調査を実施するものである。

調査対象

※文部科学大臣が指定する助産師養成学校(161校に調査票配布)

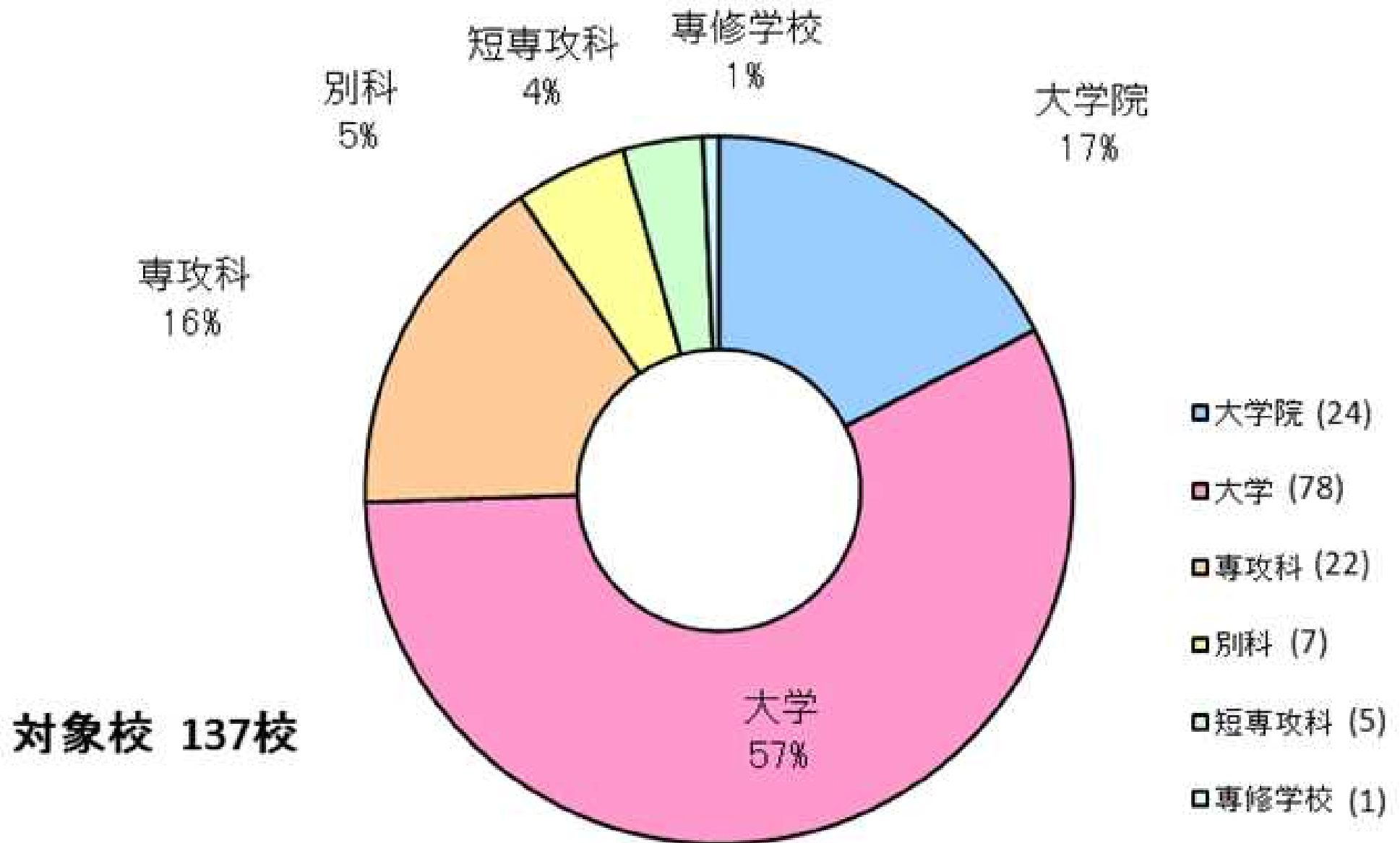
(大学院30校、大学96校、大学専攻科22校、大学別科7校、短大専攻科5校、専修学校1校)

調査結果

※上記、161校のうち、学年進行中の大学等(24校)を除く、137校を集計・分析

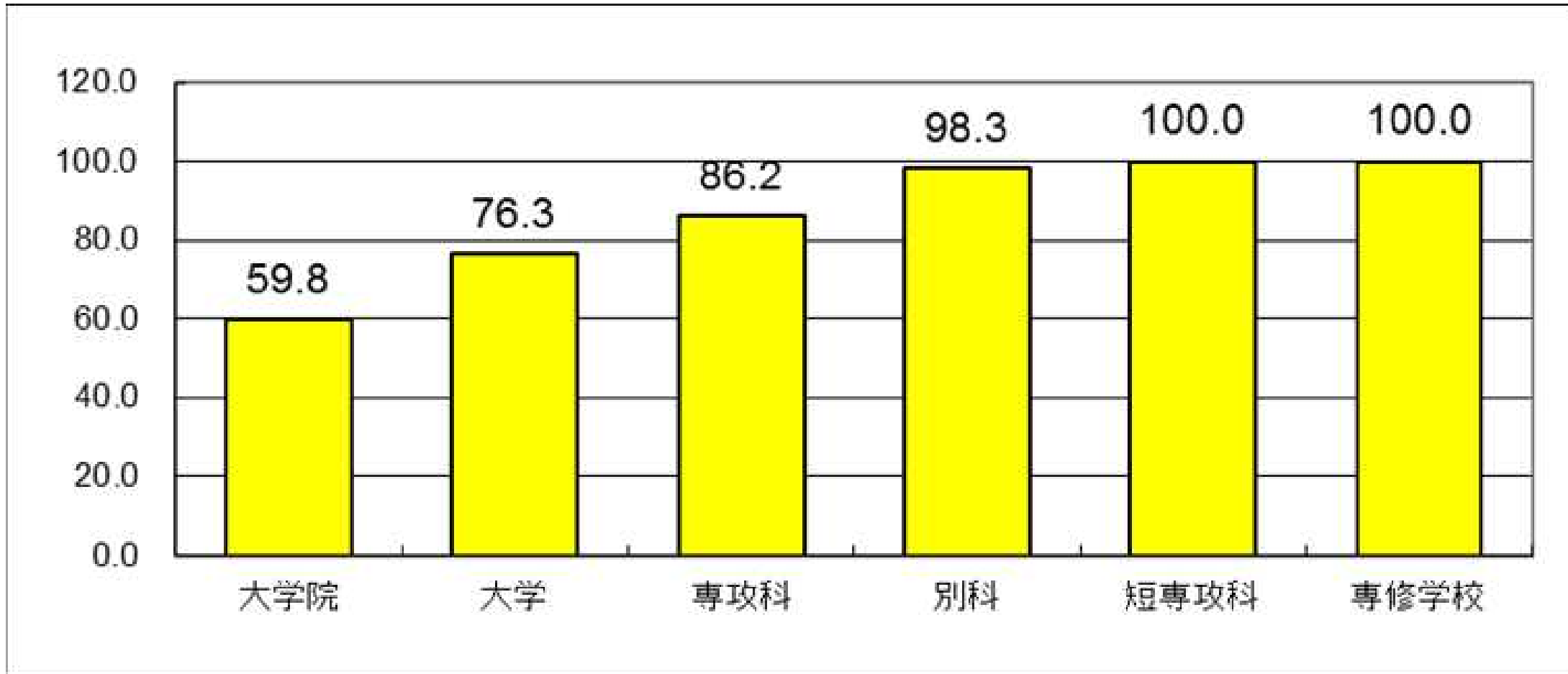
(大学院24校、大学78校、大学専攻科22校、大学別科7校、短大専攻科5校、専修学校1校)

調査対象校課程別割合



調査結果 1 : 充足率

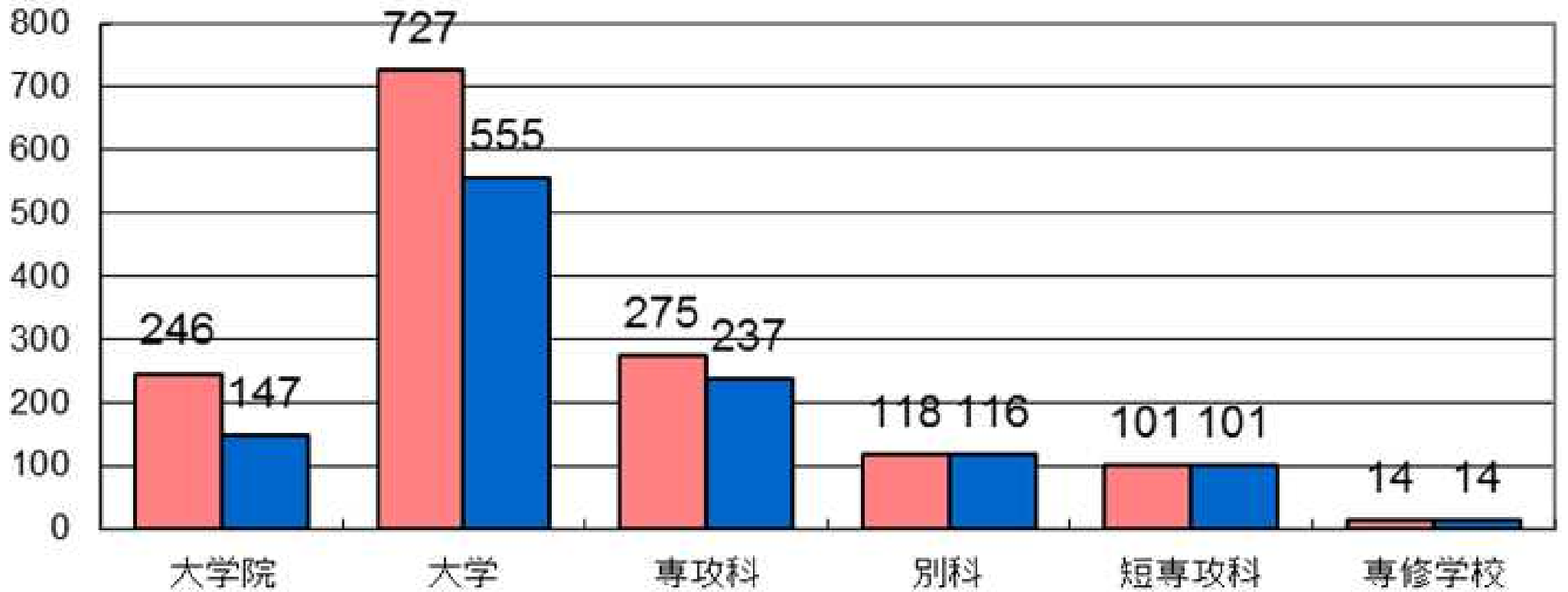
(%)



充足率 = 助産学実習単位を取得した学生数 / 養成可能人数

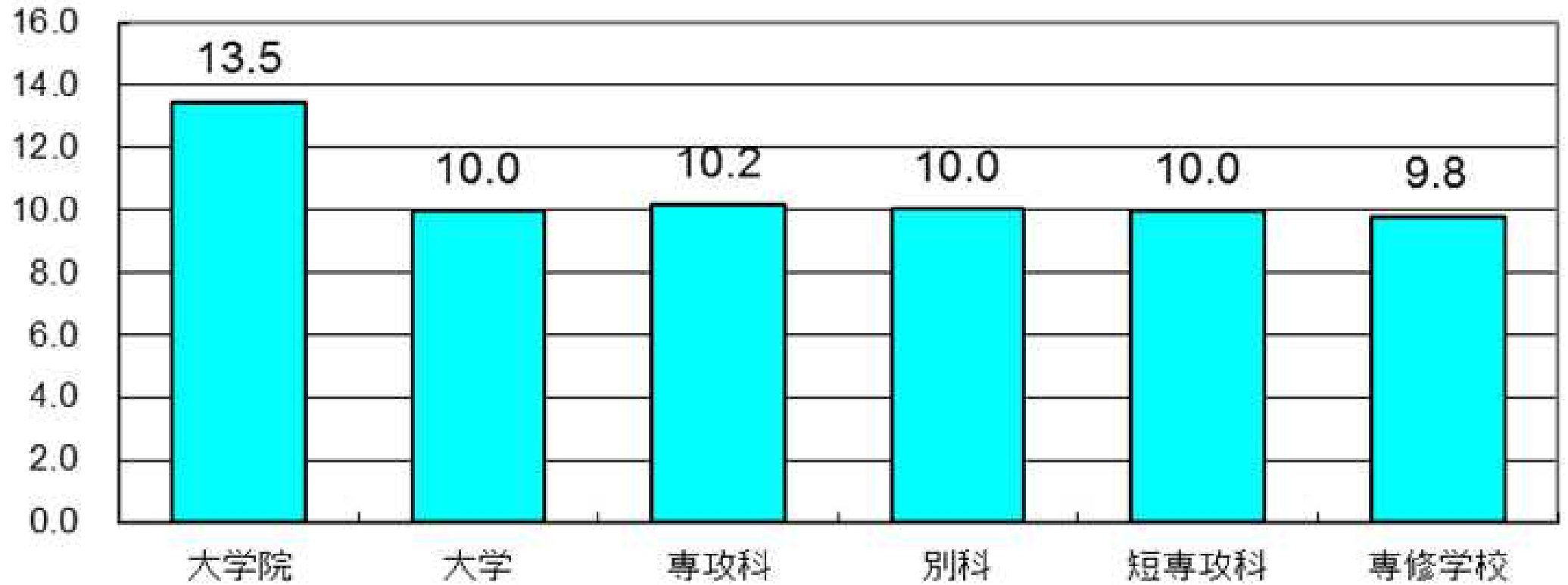
調査結果 1 : 養成可能人数と助産学実習単位を取得した学生数

(人)



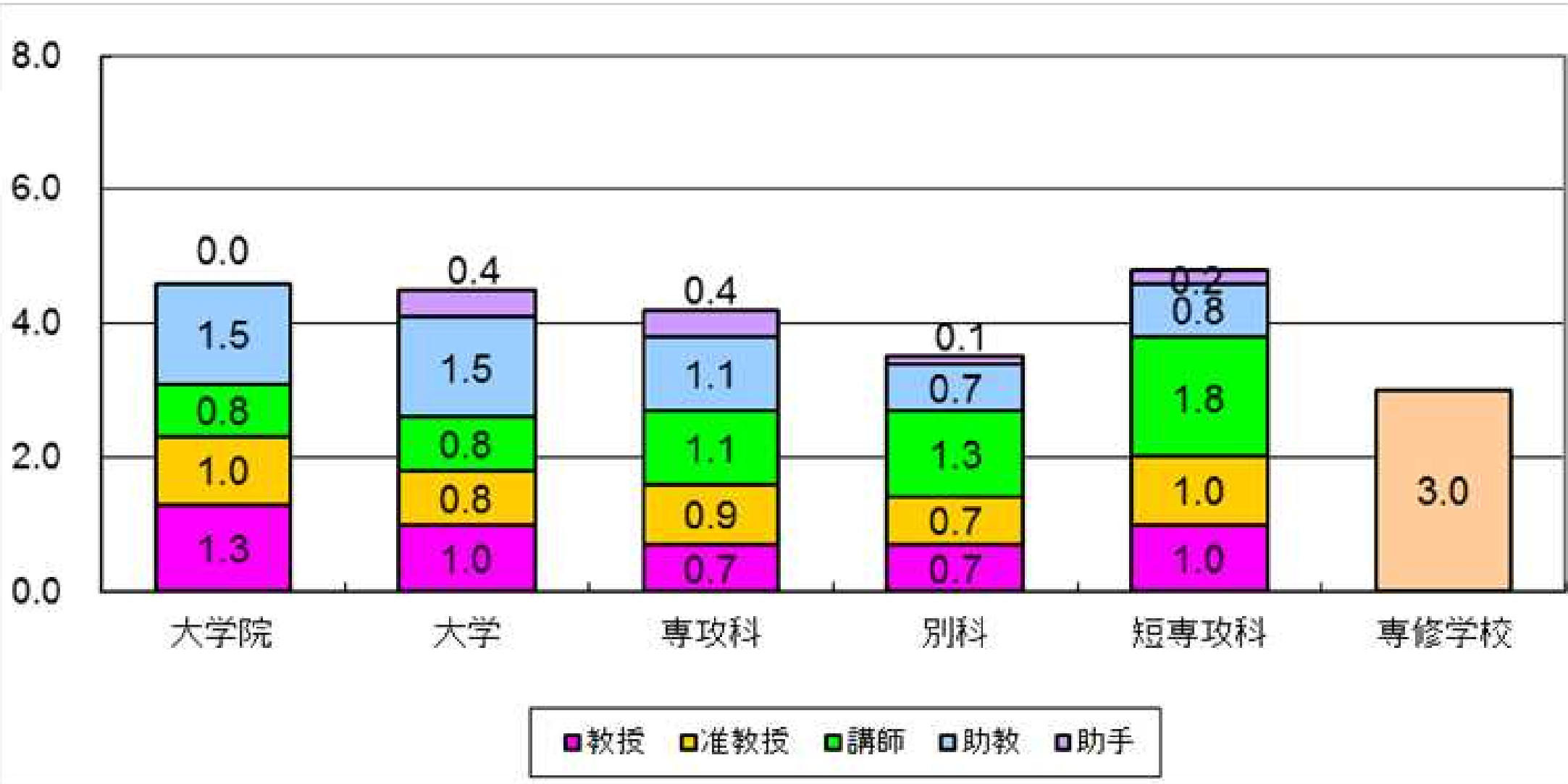
調査結果 2 : 学生1人当たり平均分娩取扱い回数

(回)



調査結果 3-①：実習指導体制（平均専任教員数）

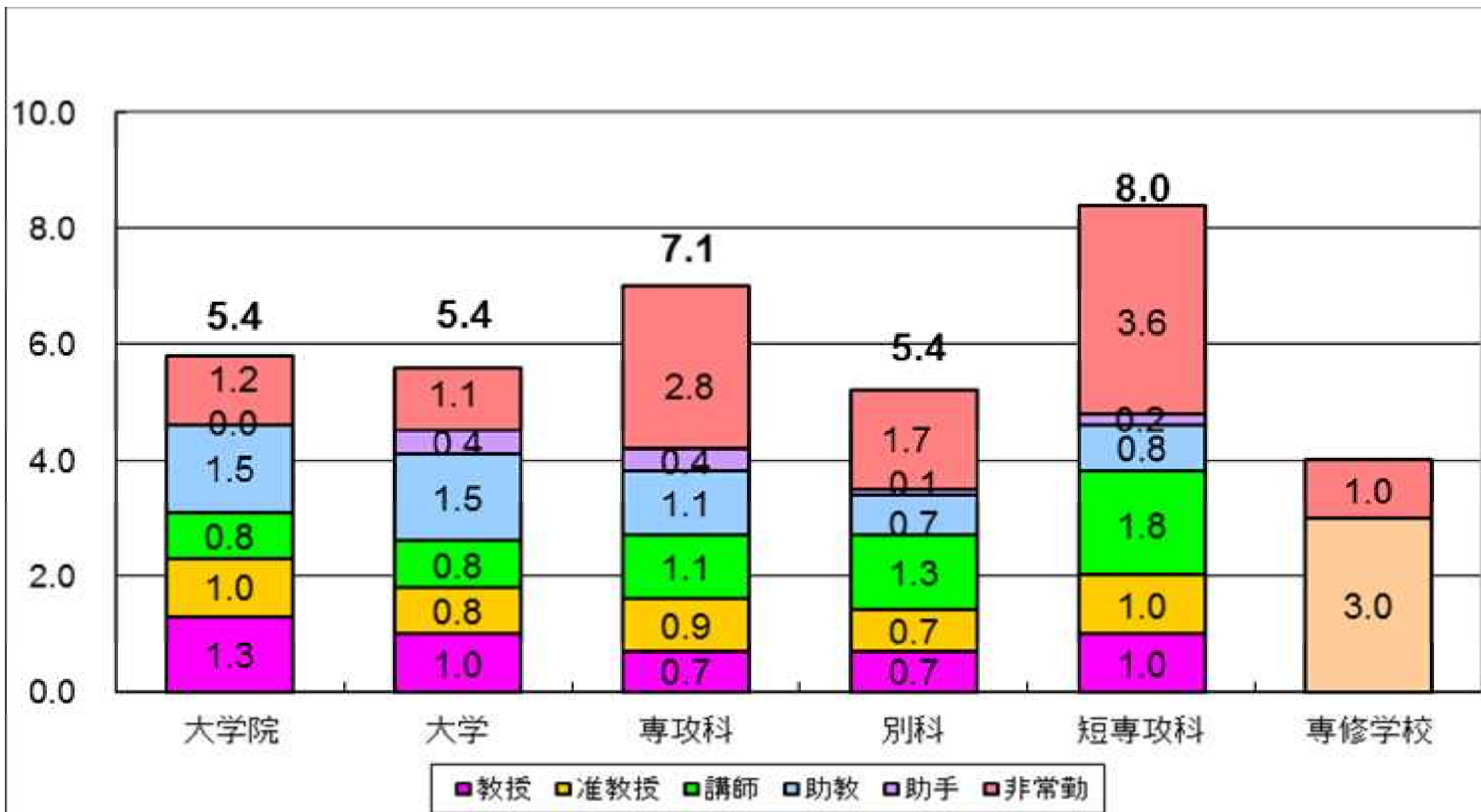
(人)



※専修学校 専任教員3名

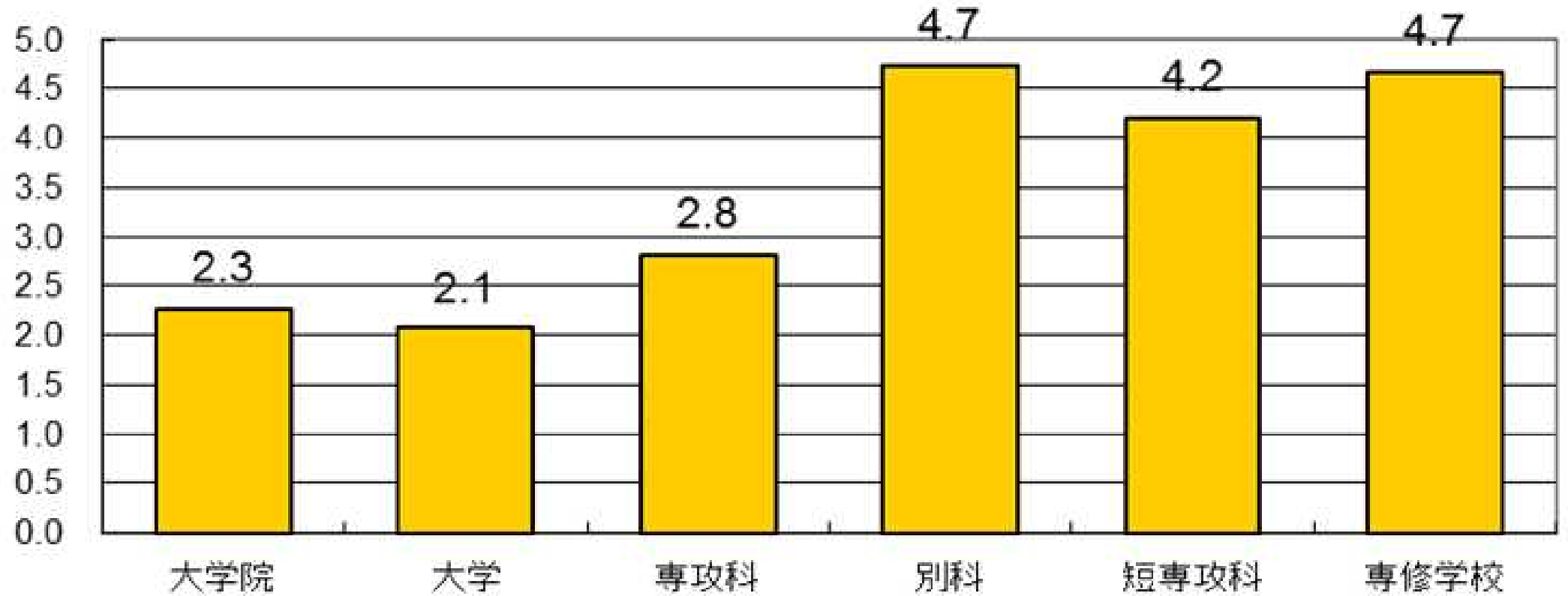
調査結果 3-②：実習指導体制（平均教員数（専任+非常勤））

(人)



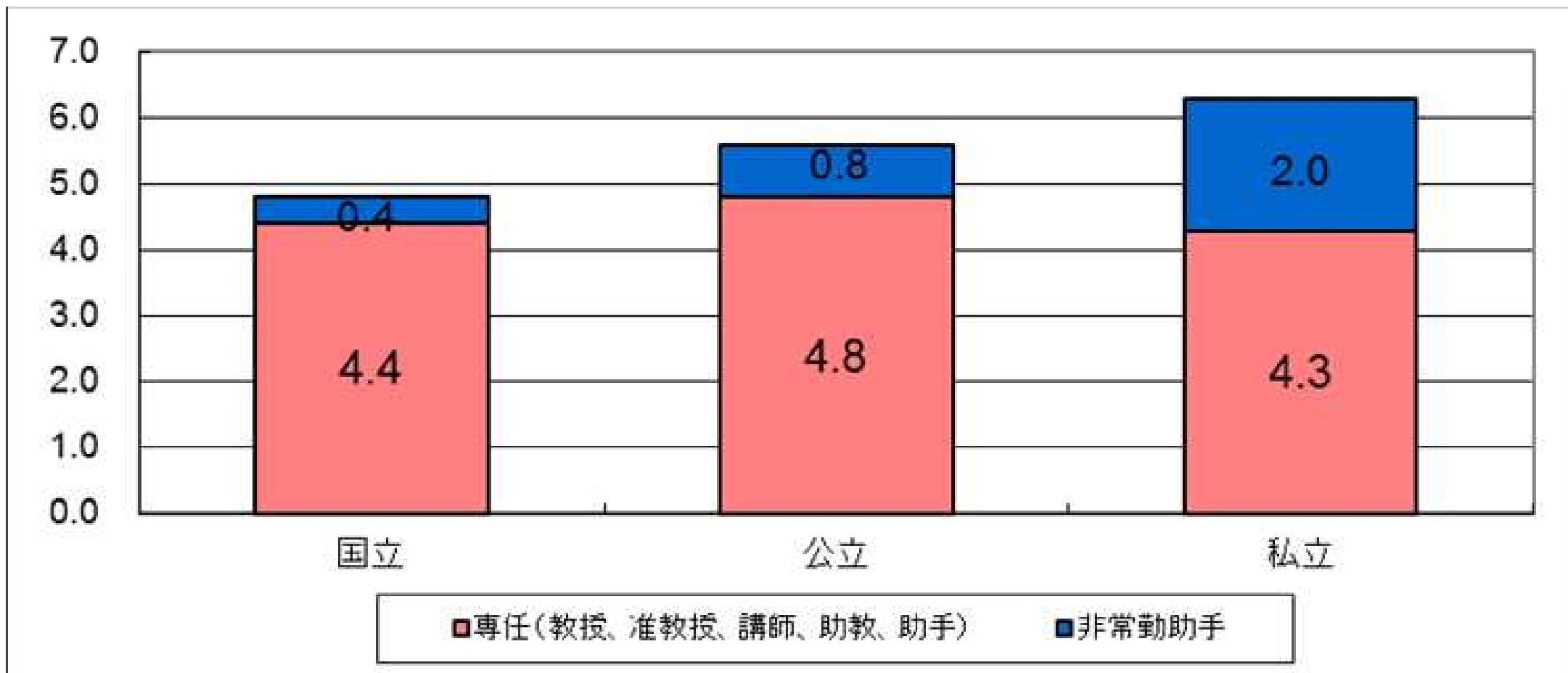
調査結果 3-③：教員 1 人当たりに対する養成可能人数

(人)



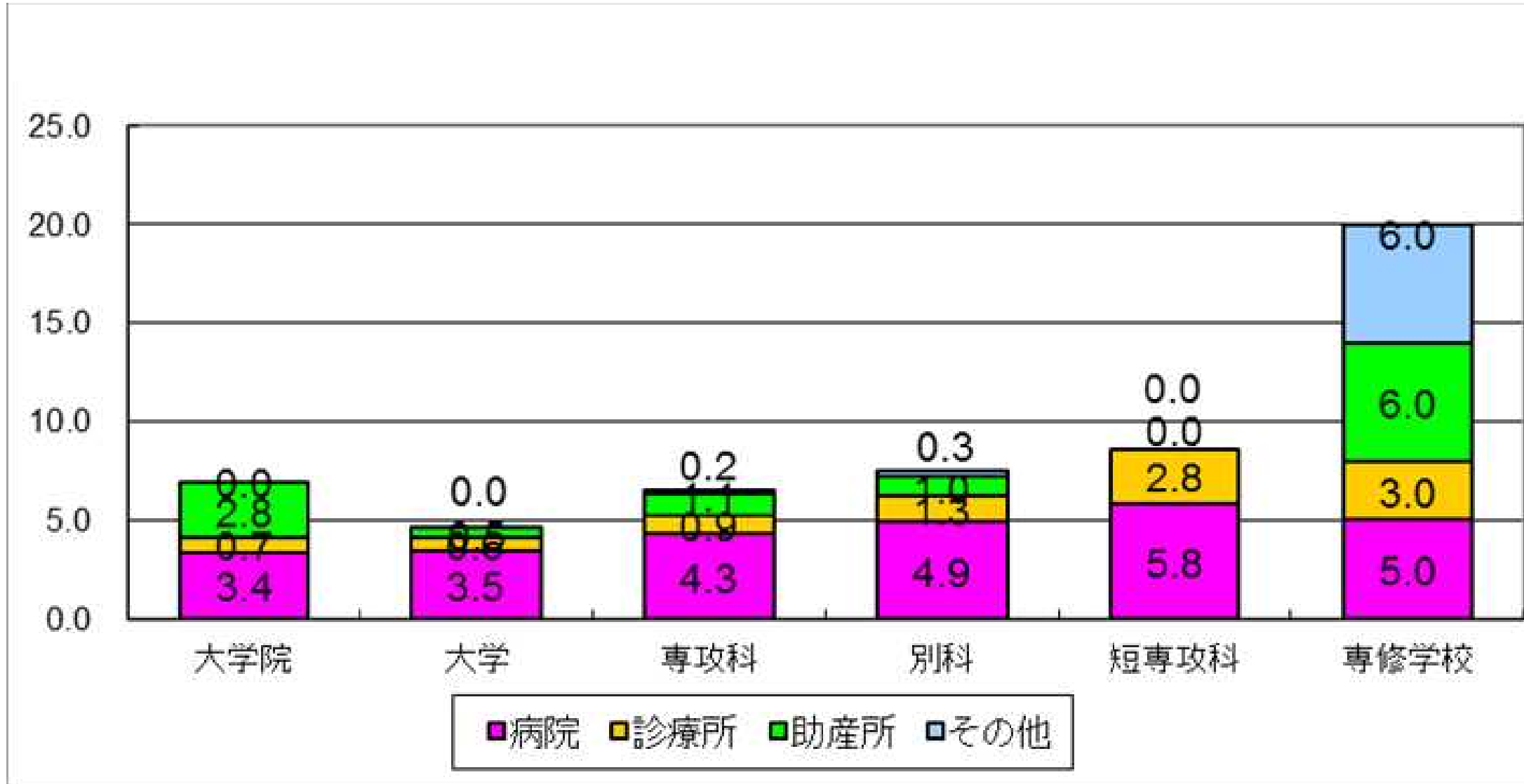
調査結果 3-④：分べん実習において、臨地で指導に携わった教員数（学士課程）

(人)



調査結果 4 : 実習施設数 (平均)

(施設)



保助看法で定めるところの助産学実習における分べん取扱い回数に係る調査

